

## IV 国際協力の推進



## 1 海外ボランティア等の派遣について

独立行政法人 国際協力機構（以下「JICA」という。）が実施する、青年海外協力隊をはじめとするJICAボランティア事業は、海外へ各種ボランティアを派遣する事業である。本県からも参加者が累計400名以上に達するなど、多くの県民が様々な形で国際協力活動を携わっている。

### 国際協力機構（JICA）の沿革

1974（昭和49）年8月、外務省管轄の特殊法人として国際協力事業団（通称 JICA Japan International Cooperation Agency）が設立され、ODAのうち、技術協力及び無償資金協力を実施してきた。

2003（平成15）年10月に独立行政法人化し「独立行政法人 国際協力機構」となった。2008（平成20）年10月には、政府の行政改革、ODAの質の向上を目的に、ODAの実施機関の統合が行われた結果、JICAは従来の業務に加えて、国際協力銀行（JBIC）の海外経済協力業務と、外務省の無償資金協力業務（一部を除く）を引き継いだ。

### 政府開発援助（ODA）と独立行政法人 国際協力機構（JICA）

政府開発援助（通称ODA Official Development Assistance）とは、開発途上国の経済開発や福祉の向上を目的とする、政府または政府機関によって供与される各種援助である。

日本のODAは、内閣に設置された「海外経済協力会議」が目的・理念等の戦略を立案し、この戦略に沿って、外務省が国や地域、分野ごとに「国別援助計画」等の具体的な計画を立てる。この計画に基づいた事業を実際に途上国で行うのが、実施機関としてのJICAである。

JICA海外ボランティア事業

	青年海外協力隊	シニア海外ボランティア	日系社会青年ボランティア	日系社会シニアボランティア
事業概要	アジア・アフリカ・中南米・中東・欧州地域の人々のために、自分の持っている技術や経験を生かしたいという強い意欲を持った方を派遣する事業。		中南米の日系人社会のために、自分の持っている技術や経験を活かしたいという強い意欲を持っている方を派遣する事業。	
協力分野	計画・行政、公共・公益事業、農林水産、鉱工業、エネルギー、商業・観光、人的資源、保健・医療、社会福祉の9分野、120以上の職種			
募集時期	毎年2回 春期および秋期	毎年2回 春期および秋期	毎年2回 春期および秋期	毎年2回 春期および秋期
派遣期間	原則として2年間	原則として2年間	原則として2年間	原則として2年間
応募資格	満20歳から満39歳までの日本の国籍を有する者	満40歳から満69歳以下の日本の国籍を有する者	満20歳から満39歳までの日本国籍を有する者	満40歳から満69歳以下の日本国籍を有する者
派遣者数 (平成29年12月末現在)	43,297名	6,272名	1,390名	513名
	男性23,161名 女性20,136名	男性5,097名 女性1,175名	男性530名 女性860名	男性241名 女性272名
	うち現在派遣者数	348名	87名	33名
	1,915名	348名	87名	33名
	男性835名 女性1,080名	男性259名 女性89名	男性30名 女性57名	男性14名 女性19名
現在派遣国数	70カ国	57カ国	5カ国	5カ国
県出身派遣者数 (平成29年12月末現在)	407名	30名	13名	1名
	男性250名 女性157名	男性24名 女性6名	男性4名 女性9名	男性1名
	うち現在派遣者数	0名	0名	0名
	10名	0名	0名	0名
	男性3名 女性7名	0名	0名	0名
現在派遣国数	10カ国	-	-	-

・県関係職員の派遣 累計26名 (平成29年12月末現在)

	知事部局	教育庁	公立教職員	秋田県警察職員
派遣職員累計	10	0	15	1
うち現在派遣中	1	0	2	0

表5 県出身ボランティアの派遣実績

①過去5年間の年度別派遣実績(平成29年12月末現在)

(単位:人)

年度	2012	2013	2014	2015	2016	2017
<b>青年海外協力隊</b>						
秋田県	10	10	11	10	6	6
全 国	948	1,081	1,267	1,198	1,132	1,169
<b>シニア海外ボランティア</b>						
秋田県	4	2	3	0	1	1
全 国	264	268	271	256	218	210
<b>日系社会青年ボランティア</b>						
秋田県	0	2	2	0	0	0
全 国	33	43	57	49	86	65

※日系社会シニアボランティアは過去5年秋田県より派遣実績がないため省略

②平成29年12月末現在地域別・国別派遣実績(76カ国 451名)

<b>アジア</b>		<b>136</b>					
フィリピン	16	マレーシア	15	スリランカ	16	ネパール	17
バングラデシュ	15	ラオス	9	タイ	8	インドネシア	7
カンボジア	6	ベトナム	7	モンゴル	4	中国	3
インド	5	ブータン	6	モルディブ	1	ウズベキスタン	1

<b>中南米</b>		<b>104</b>					
パラグアイ	9	グアテマラ	9	ホンジュラス	9	ドミニカ共和国	7
ボリビア	10	エルサルバドル	8	ブラジル	9	エクアドル	7
コスタリカ	5	ニカラグア	4	パナマ	4	コロンビア	4
メキシコ	4	ジャマイカ	4	ウルグアイ	3	アルゼンチン	2
ペルー	3	ベリーズ	1	チリ	1	ベネズエラ	1

<b>アフリカ</b>		<b>145</b>					
マラウイ	23	ガーナ	16	ザンビア	15	ケニア	17
タンザニア	13	エチオピア	10	リベリア	4	セネガル	9
ニジェール	4	ブルキナファソ	4	ジンバブエ	2	コートジボワール	2
ウガンダ	8	ボツワナ	3	マダガスカル	1	ベナン	3
モザンビーク	5	ナミビア	2	スーダン	1	カメルーン	1
ガボン	1	ルワンダ	1				

<b>オセアニア</b>		<b>36</b>					
パラオ	5	フィジー	5	サモア	6	ミクロネシア	4
バプアニューギニア	5	マーシャル	2	ソロモン	3	トンガ	2
バヌアツ	4						

<b>ヨーロッパ</b>		<b>7</b>					
ポーランド	3	ブルガリア	2	ハンガリー	1	セルビア	1

<b>中東</b>		<b>23</b>					
シリア	7	ヨルダン	2	イエメン	1	モロッコ	9
チュニジア	4						

## 2 研修員受入事業・草の根技術協力事業について（表6参照）

JICAが実施している事業は多岐にわたる。県内では、海外ボランティアの派遣以外にも、以下の事業が実施されている。

### （1）研修員受入事業について

研修員受入事業は、主に当該分野の開発の中核を担う人材を研修員として日本に招き、それぞれの国が必要とする知識や技術に関する研修を行う事業であり、次世代を担う若手リーダーの育成に焦点を絞った「青年研修」、途上国の個別の具体的な要請に基づき実施する「国別研修」、日本側から途上国に提案し、要請を得て実施する「課題別研修」などがある。

### （2）草の根技術協力事業について

草の根技術協力事業は、国際協力の意志を持つ日本のNGO、大学、地方自治体および公益法人等の団体による開発途上国の地域住民を対象とした協力活動を、JICAが政府開発援助（ODA）の一環として促進し、事業の提案団体とJICAが共同で実施する事業である。

本事業の趣旨は、市民の力による開発への貢献の質・量両方における拡大と、途上国や日本の地域の課題解決への理解・参加の促進の2つである。

提案団体の開発途上国・地域への支援活動の実施の有無により「草の根パートナー型」、「草の根協力支援型」、地方自治体または地方公共団体が推薦する団体を対象とする「地域提案型（地域活性化特別枠）」の3つのタイプに分けることが出来る。

表6 秋田県におけるJICA事業の実績

## ①JICA研修員受入事業（青年研修）

※平成18年度までの青年招へい事業を改編したもので平成19年度から開始

年度	国/分野	人数	実施団体
昭和59年度	フィリピン 教員	16	秋田市アセアン青少年受入実行委員会
昭和60年度	インドネシア 青年指導者	25	秋田市青年研修生の会アセアン招へい事務局
昭和61年度	アセアン混成 公務員	29	21世紀のための友情計画秋田県実行委員会
昭和62年度	シンガポール 教員	25	秋田市教育委員会社会教育課
昭和63年度	マレーシア 農村青年	20	青年海外協力隊秋田県OB会
平成1年度	タイ 農村青年	25	秋田県国際農業者交流協会
平成2年度	シンガポール 公務員	24	秋田県国際交流研究会
平成3年度	フィリピン 勤労青年/農業/農業系	25	秋田県国際農業者交流協会
平成4年度	韓国 教員	25	(財)秋田県国際交流協会
〃	パプアニューギニア 教員	20	秋田ユネスコ協会
平成5年度	フィリピン 学生	20	〃
〃	モンゴル 教員	10	(財)秋田県国際交流協会
平成6年度	フィリピン 農業	25	秋田県農業近代化ゼミナール連絡協議会
〃	シンガポール 教員	22	秋田ユネスコ協会
平成7年度	韓国 大学生	25	秋田青年友の会
〃	タイ 経済	20	(財)秋田県国際交流協会
平成8年度	韓国 学生/農水科系	25	〃
平成9年度	フィリピン 農業	24	〃
平成10年度	ミャンマー 教員	20	秋田青年友の会
平成11年度	マレーシア 農業	21	(財)秋田県国際交流協会
平成13年度	アフリカ混成（フランス語圏20カ国）女性教員	22	秋田青年友の会
平成14年度	アフリカ混成（英語圏16カ国）女性教員	23	〃
平成15年度	太平洋混成（太平洋諸国13カ国）社会開発（小中学校教育）	24	〃
平成16年度	太平洋混成（太平洋諸国12カ国）社会開発（保健医療）	19	〃
平成17年度	パプアニューギニア 教育（初等）	15	秋田国際交流友の会
〃	インド 農業	18	青年海外協力隊秋田県OB会
平成18年度	フィリピン 農業	23	青年海外協力隊秋田県OB会
〃	アフリカ英語圏 理数科教員	24	秋田国際交流友の会
平成19年度	フィリピン 農業	17	青年海外協力隊秋田県OB会
〃	モルディブ 教員（初中等）	9	秋田国際交流友の会
平成20年度	モルディブ 青少年指導者	9	秋田国際交流友の会
平成21年度	モルディブ 地方行政	10	秋田国際交流友の会
〃	モンゴル 保健医療（母子保健）	15	学校法人ノースアジア大学 秋田看護福祉大学
平成22年度	フィリピン 観光行政	15	秋田国際交流友の会
平成23年度	フィリピン 地方行政	18	秋田国際交流友の会
平成24年度	タイ 観光行政	15	秋田国際交流友の会
平成25年度	フィリピン 農村振興	17	秋田国際交流友の会
平成26年度	アフリカ（仏語圏） 職業訓練	14	秋田国際交流友の会
〃	ミャンマー 地方行政	14	秋田国際交流友の会
平成27年度	大洋州混成 地域における中小企業振興	15	(一社)秋田青年会館
平成27年度	ネパール 職業訓練	15	秋田国際交流友の会
平成28年度	アフリカ（英語圏） 職業訓練	14	秋田国際交流友の会
〃	モンゴル 再生可能エネルギー	14	(一財)秋田県青年会館
平成29年度	ミャンマー アグリビジネス/アグリエコツーリズム	15	秋田国際交流友の会
〃	アフリカ（仏語） 職業訓練	23	(一財)秋田県青年会館

IV 国際協力の推進

②JICA研修員受入事業（国別研修・課題別研修）

年度	国名	案件名	人数	受入先	研修種別
平成19	メキシコ	微小脳血管外科	1	秋田県立脳血管研究センター	国別
	インドネシア他	鉱山開発と持続可能な成長	20	(財)国際資源大学校	課題別
	ザンビア	地質・鉱物資源情報整備	10	(財)国際資源大学校	課題別
平成20	インドネシ等9ヶ国	鉱山開発と持続可能な成長	10	(財)国際資源大学校	課題別
	コンゴ民主共和国等 アフリカ地域4ヶ国	地質・鉱物資源情報整備	6	(財)国際資源大学校	課題別
平成21	マラウイ他	リモートセンシング技術を活用した資源探査の基礎	5	(財)国際資源大学校	課題別
	アルバニア他	環境に配慮した効率的資源開発・利用に関する研修	11	(財)国際資源大学校	課題別
	ベトナム他	中小企業振興	9	JICA東北支部	課題別
平成22	アルバニア他	環境に配慮した効率的資源開発・利用に関する研修	11	(財)国際資源大学校	課題別
	タンザニア他	リモートセンシング技術を活用した資源探査の基礎	8	(財)国際資源大学校	課題別
平成23	アフガニスタン	中核人材育成研修	3	秋田大学	国別
	モンゴル他全20ヶ国	環境に配慮した効率的資源開発・利用に関する研修	27	(財)国際資源大学校	課題別
	コソボ	環境に配慮した鉱山開発・資源管理	9	(財)国際資源大学校	国別
	ボツワナ他全8ヶ国	アフリカ地域リモートセンシング技術を活用した資源探査の基礎	10	(財)国際資源大学校	課題別
	ベトナム	ベトナム 重化学工業人材育成	8	ユニコインターナショナル(株)	国別
平成24	アフガニスタン	中核人材育成研修	3	秋田大学大学院工学資源研究科	国別
	アルゼンチン他10ヶ国	持続可能な鉱物資源開発管理	16	(財)国際資源大学校	課題別
	コソボ	環境に配慮した鉱山開発・環境管理	3	(財)国際資源大学校	国別
	アンゴラ	地質院能力強化研修	10	(財)国際資源大学校	国別
平成25	カンボジア他15ヶ国	持続可能な鉱物資源開発管理	20	(一財)国際資源開発研修センター	課題別
	アンゴラ	地質院能力強化研修	10	(一財)国際資源開発研修センター	国別
	アフガニスタン	中核人材育成研修(修士)	2	秋田大学大学院工学資源研究科	国別
	パキスタン	パロチスタン工科大学工学課程強化プロジェクト(修士)	2	秋田大学大学院工学資源研究科	国別
	モンゴル	鉱物資源セクター人材育成プロジェクト(修士)	1	秋田大学大学院工学資源研究科	国別
	ナイジェリア他6ヶ国	アフリカ地域 鉱物資源地質情報整備	8	(一財)国際資源開発研修センター	課題別
	コソボ	環境に配慮した鉱山開発・環境管理	10	(一財)国際資源開発研修センター	国別
	モンゴル	探査・鉱山開発	10	(一財)国際資源開発研修センター	国別
平成26	アンゴラ他14ヶ国	持続可能な鉱物資源開発管理	22	(一財)国際資源開発研修センター	課題別
	ボツワナ他7ヶ国	アフリカ地域 鉱物資源地質情報整備	18	(一財)国際資源開発研修センター	課題別
	モンゴル	鉱物資源セクター人材育成	10	(一財)国際資源開発研修センター	国別
	ベトナム	ホーチミン工業大学重化学工業人材育成支援(共同研究立ち上げ)	3	秋田工業専門学校	国別
	ベトナム	ホーチミン工業大学重化学工業人材育成支援(高専教育全般)	3	秋田工業専門学校	国別
	パキスタン	パロチスタン工科大学工学課程(学部長レベル)	2	秋田大学大学院工学資源研究科	国別
	タンザニア	ABEイニシアティブ/資源の絆	2	秋田大学大学院工学資源研究科	国別
	マラウイ・モンゴル	資源の絆	4	秋田大学大学院工学資源研究科	国別
平成27	ボツワナ他14ヶ国	鉱物資源開発行政	30	(一財)国際資源開発研修センター	課題別
	アンゴラ他8ヶ国	アフリカ地域資源探査の為に地質情報マネジメント	17	(一財)国際資源開発研修センター	課題別
	ベトナム	ホーチミン工業大学重化学工業人材育成支援プロジェクト	2	秋田工業専門学校	国別
	パキスタン	パロチスタン工科大学工学部教員プロジェクト	7	秋田大学大学院工学資源研究科	国別
	ザンビア	ABEイニシアティブ	1	秋田大学大学院工学資源研究科	国別
	ケニア他3ヶ国	資源の絆	5	秋田大学大学院工学資源研究科	国別
	パキスタン	パロチスタン工科大学工学課程強化プロジェクト(修士)	1	秋田大学大学院国際資源学研究科	国別
	平成28	ブータン他19ヶ国	鉱物資源開発行政	20	(一財)国際資源開発研修センター
アンゴラ他10ヶ国		アフリカ地域資源探査に係る地質情報マネジメント	17	(一財)国際資源開発研修センター	課題別
モザンビーク		鉱物資源分野における能力強化プロジェクト	4	秋田大学大学院国際資源学研究科	国別
セルビア		持続可能な資源開発実現のための空間環境解析と高度金属回収の融合システム研究プロジェクト	12	秋田大学大学院国際資源学研究科	国別
モザンビーク他3ヶ国		資源の絆	6	秋田大学大学院国際資源学研究科	国別
インドネシア		C-BEST	1	秋田大学大学院国際資源学研究科	国別
平成29	ジンバブエ他17ヶ国	鉱物資源開発行政	19	(一財)国際資源大学校	課題別
	ジンバブエ他10ヶ国	アフリカ地域資源探査に係る地質情報マネジメント	17	(一財)国際資源大学校	課題別
	モザンビーク	モザンビーク「鉱物資源教育研修」	5	JCOAL	国別
	セルビア	セルビアSATREPS	7	秋田大学大学院国際資源学研究科	国別
	モザンビーク・ラオス	資源の絆	3	秋田大学大学院国際資源学研究科	国別
	アフガニスタン	PEACE	2	秋田大学大学院国際資源学研究科	国別



## ③JICA草の根技術協力事業

年度	国名	事業名	人数	実施団体	タイプ
平成14年度	ハンガリー	脳血管障害の予防・診断・治療に関する研究	3	秋田県立脳血管研究センター	地域提案型
平成15年度	〃	脳卒中の予防・診断・治療に関する研修と両地域の比較研究	3	〃	〃
平成16年度	〃	〃	3	〃	〃
平成18年度	メキシコ	メキシコの医療体制に最適な脳卒中予防戦略の研修	1	〃	地域提案型
平成19年度	〃	〃	1	〃	〃
平成20年度	〃	〃	1	〃	〃
平成21年度	インドネシア	インドネシアの中山間地における地盤災害防災技術の能力開発事業	3	秋田大学	地域提案型
平成22年度	〃	〃	3	〃	〃
平成23年度	〃	〃	3	〃	〃
平成24年度	無し	-	-	-	-
平成25年度	無し	-	-	-	-
平成26年度	無し	-	-	-	-
平成27年度	マレーシア	コタキナバル市における廃棄物管理の改善	6	(一社)あきた地球環境会議	草の根協力支援型
平成28年度	〃	〃	3	〃	〃
平成29年度	〃	〃	0	〃	〃

